

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 しらかば	評価実施年月日	平成22年3月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	事業所独自の理念がある。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	理念はホーム内に掲示している。そして、この理念に向かい、職員で取り組んでいる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	日々の活動を通して、理解して頂けるように努力をしている。又、地域や御家族からの協力も得ている。	日々の活動を通じてだけでなく、運営推進会議の場でも、理念を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	近所の方から花を植えて頂いたり、野菜を頂くなど色々な協力があり、近所から遊びに来て頂けるかたもいる。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	参加できる行事には参加させていただいている	将来的には能動的にもっと貢献できるよう、今以上に地域の行事等に参加していきたい。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の高齢者が遊びに来てくれる場になっている。	今後も、より一層地域の高齢者が立ち寄り易い場所になるように努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価は、外部の方が事業所を選ぶ際の大切な拠り所であると共に、事業所にとっては、自分達のケアを振り返り、サービスの質を向上させるきっかけにする事が出来る有用なものと捉え、改善項目は積極的に改善に取り組もうと考えている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議の開催方法を、入居者家族、行政職員等が出席し易いように、工夫はしているが、概ね2ヶ月と言った目標の開催数には至っていない。運営推進会議で出された意見は積極的に取り組んで行きたいと考えている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>町の認定調査員から他の施設で取り組みの記事を頂いたり、事業所の管理者が認知症サポーター養成講座を町との協力により開いている。</p>	<p>SOSネットワークについて、利用方法や情報が周知されておらず機能されていない。町の協力と共に、他事業所の協力も得て、機能出来るように取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員に対しては勉強会を行い、入居者様に対しては必要と思われる場合は活用し支援しようと考えている。実際に、今までも数名が成年後見制度を利用されている。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員に対しては勉強会を行い、入所者様に不自然なあざ等が無いが、全員で注意している。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>そのように努めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の制限は無いので、利用者様が外部者に訴える機会を奪わないようにしている。管理者や職員に何らかの要望があった場合は、それに応えるように努力をしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期的にホーム便りを発行し、御家族が遠方の場合等には、手書きの手紙により様子を伝えている。又、御家族の面会時にも、個々に報告するように心掛けている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どのようなご意見でも、話し合い運営に反映させるように心掛けている。実際に御家族からの意見によって改善された点もある。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に、管理者は個人面談等で職員の意見を聞き、反映できる部分に関しては反映させる努力をしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	限られた職員の中で全ての状況に対応する事は困難だが、病院への受診や地域行事の参加等の際は、必要な職員数を確保する様に調整している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は原則行なわない事としているが、退職や新規採用時には、それによって利用者に不安を与えないよう全体でフォローし配慮する様に心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人の研修は毎月行なっている。外部の研修は、釧根地域での研修に積極的に参加するようにしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同町のグループホームとは共同で勉強会も行なっており、可能な限り情報交換も行なっている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>決して十分な広さとはいえないかもしれないが、休憩する場所を確保している。又、定期的に職員での会食等を行い、ストレスを軽減出来る様に努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>例えば、介護支援専門員等の資格を取り本人にやる気があつて的確と判断されれば、計画作成担当者として更に重要且つ責任ある職務に就けるように考えている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>そのように努めている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談、入所日には出来るだけ話す機会を持つようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	法人の相談員等とも連携を取り、そのように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所の決定した方には原則管理者がお会いさせて頂き、必要と思われる方にはホームの雰囲気等をお話し、希望される方には予め見学もして頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事、畑作業、レクリエーション等、本人の好みや出来ることに応じて、可能な限り主体的に生活して頂く様支援し、これらを通じて職員も毎日一緒に喜怒哀楽を共にしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごして頂ける様支援する事で、御家族様が本人を支えていく関係を保つことが出来ると考え、そのように努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごして頂けるよう支援をする事で、御家族様と本人がより良い関係を継続出来ると考え、そのように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会は原則制限はしておらず、知人や友人が訪ねて来る事がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他人同士が1つの住居に住む為、中には孤立してしまう入居者もいるが、全員が楽しく暮らせる様に職員が中に入り配慮している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も、入院先等の面会を行ない関係が継続出来る様に支援している。又御家族については行事の参加や、手伝い等に積極的に参加して頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	そのように努めている		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	そのように努めている		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	そのように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	遠隔地に御家族がいらっしゃる場合等、プランに対しての意見を積極的に話し合う事が少ない。		遠隔地に御家族がいらっしゃる場合でも、意見を伺うような機会を作っていく様に検討、工夫が必要な為、そのように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	そのように努めている		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報の共有や、日々の観察、個々の記録状況は行えているが、ケアプランに沿った記録の記入が徹底されていない。		職員全員が記録について勉強会や会議等で理解を深め、実践できるように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院の受診を初め、御家族が出来ない場合は各種手続きも利用者様を支援する形で行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアは定期的に訪問してくれている。社会福祉協議会にも多くの場面で支援して頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在他のサービスを利用している入居者はいないが、必要があればそのように支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターといつでも相談できる関係で、相談もし易い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	法人の医療機関とは常に連携をしており、支援もある。御家族からの要望があれば、専門医への受診も行なっている。		御家族の希望と共に職員が専門医への受診が必要と感じた時に、迅速に専門医に診察を受けられる様に努めていく。
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	当法人の院長が認知症に詳しく、常に相談できる体制になっている。町内に認知症専門医は不在。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	法人の訪問看護師、外来看護師、病棟看護師長には気軽に相談でき、利用者の状態や個別的な事も知ってくれている。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	医療が必要な部分については、本人の個別状況を良く説明した上で医療機関に委ねるが、入院中の不安解消や退院してもホームでの医療上の不安が出来るだけ少なくなる様各機関の協力を得る事で、早期退院の支援をしている。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	看取りは本人、御家族が希望された場合で、ホームで対応可能な場合は看取りも行なうとしており、実際に看取らせて頂いた事もある。しかし、医療行為等が出来ない場合もあり、対応出来ない部分もある。重度化された場合も、医療機関の支援を受け対応している。		看取りを行なうには、制度や法律上限界があるとは思いますが、その中でも、入居者や御家族の意向に応えられる様に、協力医療機関や関連事業所等の関係を得るように努める。現在はマニュアルの作成中。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	重度化、終末期には医療機関と連携を取ってチームケアを行なえる体制とになっている。		介護職しかいない為、又、訪問看護ステーションと契約していても事実上24時間いつでもサポートを受けることは困難である為、吸引が必要な方や、褥瘡がある方等は対応出来ない場合がある。療養型病院が同法人にあるのでそのメリットを活かせる様に取り組んでいきたい。現在協力医療機関や関連事業所の協力を得るように努める。マニュアルを作成中。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>そのように努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシー確保は、馴染みの関係が出来ているほど侵されやすいと考えており、その点について都度配慮するように注意をしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>介護のその時の場面で選択していただける様な声掛けや関わりを持てる様に努めている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員のみが行う業務の簡素化、短縮化により、出来るだけ利用者様とゆったりとした時間が持てるように、会議などで話し合い、一人一人の生活ペースを大切に支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容室は、本人の行きつけの場所がある場合はお連れしている。おしゃれも、その方が希望するものを選べるように配慮をしたり、希望される場合は店に、スタッフと一緒に買い物にお連れしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者様が主体的に、後片づけを一緒に行って頂いている。根野菜や果物の皮むきや調理も、その時の状況に応じて一緒に行って頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは決められた場所で吸って頂くが、禁止はしていない。その他の事も規制はしていないが、病気や栄養状態には配慮をしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来るだけオムツは使用せず、使用にあっては排泄時間や種類などを慎重に検討した上で、過剰なオムツは使用しないように、配慮をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ユニットにお風呂は1箇所だけのため、全ての方が毎日希望される時間に入浴することは困難だが、希望されれば毎日入浴も可能で、夜間入浴も含め、出来るだけ希望される時間に入っていただけるよう努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間は設けず、それぞれが自分のリズムで就寝できるようにしている。また、日中から適度な運動と、夕方以降は過度な照明にも気を配っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や畑など、役割を持てるよう支援している。また、趣味や利用者様から意見を聞き、出来る限り要望に応えられるように努めている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を自分で管理されている方もおり、買い物に行きたい時や、購入してほしい時は、それを職員で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	スタッフからの声掛けや入居者様から声が聞かれ、天候のゆるす限り、散歩やドライブの支援をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事などで、遠出も含め、要望が多い場所に出かける支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話はホームの電話が使えるようにしている。文通している方もいる。また、自室に電話を設置されている方もおり、身内の方や知人の方から電話が掛かってくることもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会の制限はしていないので、訪問してくれる方は多い。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	どんな場合でも身体拘束は行わないことを目標にし、日々の業務に携わっている。		今後も、定期的に身体拘束についての勉強会をおこなっていき、必要性を学んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の施錠はしておらず、その他入浴と排泄の支援時にプライバシー保護の観点から一時的に脱衣場とトイレの施錠をすることはあるが、職員が管理上等の理由で施錠することはしない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーへの配慮と同時に安全を確保することはとても難しいことではあるが、コールマットなどを利用しながら、必要以上にプライバシーを侵すことなく安全に配慮するよう努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の状態を観察させていただいた上で、危険が無いと判断した場合には、ハサミ、包丁など使用している。利用者様から取り上げるような場所には置いていない。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故は必ず報告し、対策を検討している。また、必要時に応じ、どのような手順や方法などを説明している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	最低2年に1回の割合で、消防署や看護師から心肺蘇生法を学ぶ機会を作っている。		心肺蘇生法だけでなく、誤嚥などの緊急時対応も、研修などで学ぶ機会を作る。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の避難訓練を行い、マニュアルも作成している。		実際の災害では、職員だけで避難誘導するのは限界があり、地域の方々に災害時の協力をお願いし、その方法を相談させていただく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに、予測され且つ危険性の高いリスクに関してはお伝えするよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調の変化を見逃さぬよう、発見した場合にはリーダー、管理者へ報告するようにしている。夜間であっても重大と思われる場合はリーダー、管理者へ連絡することになっている。受診が必要と判断した場合は速やかに医療機関と調整をしている。また、月に2回の往診、訪問看護による月2回以上の健康チェックも行っている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員の全てが薬について理解しているとはいえない。薬に関して問題があると思われる場合には、リーダー、管理者へ連絡することになっている。</p>	<p>介護職が必要な薬の知識を勉強会等で学んでいる。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>運動、水分、食物繊維の摂取は積極的に促しており、牛乳やヨーグルトも個々に合わせ利用している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの支援を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立を作る際に栄養バランスを考えて作っている。水分も、1日800cc以下であれば報告し摂取を促している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルがあり、これを実行している。また、状況に応じてはマスクの着用や、外出後は手洗い、うがいの徹底を促している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生に関してのマニュアルがあり、実行している。また、賞味期限が切れたものは使用していない。賞味期限が無いものは、充分チェックした上で使用し、少しでもいたみの可能性があれば使用しないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ホームの周囲に花を植えるなどして、親しみやすい環境をつくるよう配慮している。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	季節によって装飾を替えたり、茶の間と食堂の照明は、白色とやわらかいオレンジ色を時間によって使い分けている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	茶の間と食堂が別になっており、思い思いに過ごせるような空間になっている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人の物を持ち込むのを嫌がる方もいるが、必要な方にはその様をお願いしており、持ち込んでいただいている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気は定期的に行い、室温は蓄熱式の暖房器具のため操作が難しいが、配慮している。また、夏場はエアコンを設置して、温度調整をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>建物の外は、広場や畑があり、散歩などを楽しむことが出来る。茶の間から中庭へ通じるウッドデッキがあり、雪で閉ざされる期間以外は職員の見守りで自由に楽しめるようになっている。</p> <p>また、犬を飼い、動物好きな方に喜んでもらったり、近所の子供の訪問なども増えている。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

全員ではないが、調理や掃除、茶碗拭きや茶碗洗い、下膳、配膳等の日課活動を毎日の生活の中から見つけ行なっている。それぞれが自分の役割に責任を持ち、出来る能力を活かしている。又、毎日の生活の中で喜怒哀楽を職員も共にし、時には利用者同士の口論もあるが、お互いに気を使いながら共同生活を営んでいる。

回数としては少ないかもしれないが、行事にも力を入れており、個々の誕生日や季節に沿った外出等も行なっており、「楽しむ」という空間を作る事を職員全員が意識している。日常的にも散歩や町内のドライブ等、昔と変わってしまった町並み、又は変わらない町並みを見て頂き、思い出や楽しみを提供している。

利用者の意見を良く聞き、利用者を中心とした利用者本位の生活を提供できるように努めている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームいこいの樹 はるにれ	評価実施年月日	平成22年3月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月1日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	事業所独自の理念がある。		
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	理念はホーム内に掲示している。そして、この理念に向かい、職員で取り組んでいる。		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	日々の活動を通して、理解して頂けるように努力をしている。又、地域や御家族からの協力も得ている。		日々の活動を通じてだけでなく、運営推進会議の場でも、理念を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	近所の方から花を植えて頂いたり、野菜を頂くなど色々な協力があり、近所から遊びに来て頂けるかたもいる。		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	参加できる行事には参加させていただいている		将来的には能動的にもっと貢献できるよう、今以上に地域の行事等に参加していきたい。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	地域の高齢者が遊びに来てくれる場になっている。		今後も、より一層地域の高齢者が立ち寄り易い場所になるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価及び外部評価は、外部の方が事業所を選ぶ際の大切な拠り所であると共に、事業所にとっては、自分達のケアを振り返り、サービスの質を向上させるきっかけにする事が出来る有用なものと捉え、改善項目は積極的に改善に取り組もうと考えている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議の開催方法を、入居者家族、行政職員等が出席し易いように、工夫はしているが、概ね2ヶ月と言った目標の開催数には至っていない。運営推進会議で出された意見は積極的に取り組んで行きたいと考えている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>町の認定調査員から他の施設で取り組みの記事を頂いたり、事業所の管理者が認知症サポーター養成講座を町との協力により開いている。</p>		<p>SOSネットワークについて、利用方法や情報が周知されておらず機能されていない。町の協力と共に、他事業所の協力も得て、機能出来るように取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員に対しては勉強会を行い、入居者様に対しては必要と思われる場合は活用し支援しようと考えている。実際に、今までも数名が成年後見制度を利用されている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>職員に対しては勉強会を行い、入所者様に不自然なあざ等が無いが、全員で注意している。</p>		
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>そのように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会の制限は無いので、利用者様が外部者に訴える機会を奪わないようにしている。管理者や職員に何らかの要望があった場合は、それに応えるように努力をしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>定期的にホーム便りを発行し、御家族が遠方の場合等には、手書きの手紙により様子を伝えている。又、御家族の面会時にも、個々に報告するように心掛けている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>どのようなご意見でも、話し合い運営に反映させるように心掛けている。実際に御家族からの意見によって改善された点もある。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に、管理者は個人面談等で職員の意見を聞き、反映できる部分に関しては反映させる努力をしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>限られた職員の中で全ての状況に対応する事は困難だが、病院への受診や地域行事の参加等の際は、必要な職員数を確保する様に調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動は原則行なわない事としているが、退職や新規採用時には、それによって利用者に不安を与えないよう全体でフォローし配慮する様に心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人の研修は毎月行なっている。外部の研修は、釧根地域での研修に積極的に参加するようにしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>同町のグループホームとは共同で勉強会も行なっており、可能な限り情報交換も行なっている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>決して十分な広さとはいえないかもしれないが、休憩する場所を確保している。又、定期的に職員での会食等を行い、ストレスを軽減出来る様に努めている。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>例えば、介護支援専門員等の資格を取り本人にやる気があつて的確と判断されれば、計画作成担当者として更に重要且つ責任ある職務に就けるように考えている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>そのように努めている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談、入所日には出来るだけ話す機会を持つようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>法人の相談員等とも連携を取り、そのように努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入所の決定した方には原則管理者がお会いさせて頂き、必要と思われる方にはホームの雰囲気等をお話し、希望される方には予め見学もして頂いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>家事、畑作業、レクリエーション等、本人の好みや出来ることに応じて、可能な限り主体的に生活して頂く様支援し、これらを通じて職員も毎日一緒に喜怒哀楽を共にしている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごして頂ける様支援する事で、御家族様が本人を支えていく関係を保つことが出来ると考え、そのように努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ホーム内の利用者様が明るく日常を過ごして頂けるよう支援をする事で、御家族様と本人がより良い関係を継続出来ると考え、そのように努めている。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>面会は原則制限はしておらず、知人や友人が訪ねて来る事がある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他人同士が1つの住居に住む為、中には孤立してしまう入居者もいるが、全員が楽しく暮らせる様に職員が中に入り配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も、入院先等の面会を行ない関係が継続出来る様に支援している。又御家族については行事の参加や、手伝い等に積極的に参加して頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	そのように努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	そのように努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	そのように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	遠隔地に御家族がいらっしゃる場合等、プランに対しての意見を積極的に話し合う事が少ない。		遠隔地に御家族がいらっしゃる場合でも、意見を伺うような機会を作っていく様に検討、工夫が必要な為、そのように努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>そのように努めている</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>情報の共有や、日々の観察、個々の記録状況は行えているが、ケアプランに沿った記録の記入が徹底されていない。</p>		<p>職員全員が記録について勉強会や会議等で理解を深め、実践できるように努めたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>病院の受診を初め、御家族が出来ない場合は各種手続きも利用者様を支援する形で行なっている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>ボランティアは定期的に訪問してくれている。社会福祉協議会にも多くの場面で支援して頂いている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>現在他のサービスを利用している入居者はいないが、必要があればそのように支援している。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>地域包括支援センターといつでも相談できる関係で、相談もし易い。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>法人の医療機関とは常に連携をしており、支援もある。御家族からの要望があれば、専門医への受診も行なっている。</p>		<p>御家族の希望と共に職員が専門医への受診が必要と感じた時に、迅速に専門医に診察を受けられる様に努めていく。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>当法人の院長が認知症に詳しく、常に相談できる体制になっている。町内に認知症専門医は不在。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>法人の訪問看護師、外来看護師、病棟看護師長には気軽に相談でき、利用者の状態や個別的な事も知ってくれている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>医療が必要な部分については、本人の個別状況を良く説明した上で医療機関に委ねるが、入院中の不安解消や退院してもホームでの医療上の不安が出来るだけ少なくなる様各機関の協力を得る事で、早期退院の支援をしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>看取りは本人、御家族が希望された場合で、ホームで対応可能な場合は看取りも行なうとしており、実際に看取らせて頂いた事もある。しかし、医療行為等が出来ない場合もあり、対応出来ない部分もある。重度化された場合も、医療機関の支援を受け対応している。</p>		<p>看取りを行なうには、制度や法律上限界があるとは思いますが、その中でも、入居者や御家族の意向に応えられる様に、協力医療機関や関連事業所等の関係を得るように努める。現在はマニュアルの作成中。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化、終末期には医療機関と連携を取ってチームケアを行なえる体制とになっている。</p>		<p>介護職しかいない為、又、訪問看護ステーションと契約していても事実上24時間いつでもサポートを受けることは困難である為、吸引が必要な方や、褥瘡がある方等は対応出来ない場合がある。療養型病院が同法人にあるのでそのメリットを活かせる様に取り組んでいきたい。現在協力医療機関や関連事業所の協力を得るように努める。マニュアルを作成中。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>そのように努めている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシー確保は、馴染みの関係が出来ているほど侵されやすいと考えており、その点について都度配慮するように注意をしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>介護のその時の場面で選択していただける様な声掛けや関わりを持てる様に努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員のみが行う業務の簡素化、短縮化により、出来るだけ利用者様とゆったりとした時間が持てるように、会議などで話し合い、一人一人の生活ペースを大切に支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容室は、本人の行きつけの場所がある場合はお連れしている。おしゃれも、その方が希望するものを選ぶように配慮をしたり、希望される場合は店に、スタッフと一緒に買い物にお連れしている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者様が主体的に、後片づけを一緒に行って頂いている。根野菜や果物の皮むきや調理も、その時の状況に応じて一緒に行って頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>タバコは決められた場所で吸って頂くが、禁止はしていない。その他の事も規制はしていないが、病気や栄養状態には配慮をしている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>出来るだけオムツは使用せず、使用にあっては排泄時間や種類などを慎重に検討した上で、過剰なオムツは使用しないように、配慮をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>ユニットにお風呂は1箇所だけのため、全ての方が毎日希望される時間に入浴することは困難だが、希望されれば毎日入浴も可能で、夜間入浴も含め、出来るだけ希望される時間に入っていただけるよう努めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>消灯時間は設けず、それぞれが自分のリズムで就寝できるようにしている。また、日中から適度な運動と、夕方以降は過度な照明にも気を配っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>家事や畑など、役割を持てるよう支援している。また、趣味や利用者様から意見を聞き、出来る限り要望に応えられるように努めている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金を自分で管理されている方もおり、買い物に行きたい時や、購入してほしい時は、それを職員で支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>スタッフからの声掛けや入居者様から声が聞かれ、天候のゆるす限り、散歩やドライブの支援をしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>行事などで、遠出も含め、要望が多い場所に出かける支援をしている。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>電話はホームの電話が使えるようにしている。文通している方もいる。また、自室に電話を設置されている方もおり、身内の方や知人の方から電話が掛かってくることもある。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会の制限はしていないので、訪問してくれる方は多い。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。</p>	<p>どんな場合でも身体拘束は行わないことを目標にし、日々の業務に携わっている。</p>		<p>今後も、定期的に身体拘束についての勉強会をおこなっていき、必要性を学んでいきたい。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は玄関の施錠はしておらず、その他入浴と排泄の支援時にプライバシー保護の観点から一時的に脱衣場とトイレの施錠をすることはあるが、職員が管理上等の理由で施錠することはしない。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>プライバシーへの配慮と同時に安全を確保することはとても難しいことではあるが、コールマットなどを利用しながら、必要以上にプライバシーを侵すことなく安全に配慮するよう努めている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者様の状態を観察させていただいた上で、危険が無いと判断した場合には、ハサミ、包丁など使用している。利用者様から取り上げるような場所には置いていない。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故は必ず報告し、対策を検討している。また、必要時に応じ、どのような手順や方法などを説明している。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>最低2年に1回の割合で、消防署や看護師から心肺蘇生法を学ぶ機会を作っている。</p>		<p>心肺蘇生法だけでなく、誤嚥などの緊急時対応も、研修などで学ぶ機会を作る。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に2回の避難訓練を行い、マニュアルも作成している。</p>		<p>実際の災害では、職員だけで避難誘導するのは限界があり、地域の方々に災害時の協力をお願いし、その方法を相談させていただく。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>面会時などに、予測され且つ危険性の高いリスクに関してはお伝えするよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>体調の変化を見逃さぬよう、発見した場合にはリーダー、管理者へ報告するようにしている。夜間であっても重大と思われる場合はリーダー、管理者へ連絡することになっている。受診が必要と判断した場合は速やかに医療機関と調整をしている。また、月に2回の往診、訪問看護による月2回以上の健康チェックも行っている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員の全てが薬について理解しているとはいえない。薬に関して問題があると思われる場合には、リーダー、管理者へ連絡することになっている。</p>		<p>介護職が必要な薬の知識を勉強会等で学んでいる。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>運動、水分、食物繊維の摂取は積極的に促しており、牛乳やヨーグルトも個々に合わせ利用している。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの支援を行っている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立を作る際に栄養バランスを考えて作っている。水分も、1日800cc以下であれば報告し摂取を促している。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルがあり、これを実行している。また、状況に応じてはマスクの着用や、外出後は手洗い、うがいの徹底を促している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい 項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>衛生に関してのマニュアルがあり、実行している。また、賞味期限が切れたものは使用していない。賞味期限が無いものは、充分チェックした上で使用し、少しでもいたみの可能性があれば使用しないようにしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>ホームの周囲に花を植えるなどして、親しみやすい環境をつくるよう配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節によって装飾を替えたり、茶の間と食堂の照明は、白色とやわらかいオレンジ色を時間によって使い分けている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>茶の間と食堂が別になっており、思い思いに過ごせるような空間になっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の物を持ち込むのを嫌がる方もいるが、必要な方にはその様をお願いしており、持ち込んでいただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気は定期的に行い、室温は蓄熱式の暖房器具のため操作が難しいが、配慮している。また、夏場はエアコンを設置して、温度調整をしている。</p>		

項目		<p style="text-align: center;">取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p style="text-align: center;">印 (取組んで いきたい 項目)</p>	<p style="text-align: center;">取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p style="text-align: center;">身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>必要な場所には手すりをつけている。</p>		
86	<p style="text-align: center;">わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>病気による混乱を招かないよう、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。</p>		
87	<p style="text-align: center;">建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外は、広場や畑があり、散歩などを楽しむことが出来る。茶の間から中庭へ通じるウッドデッキがあり、雪で閉ざされる期間以外は職員の見守りで自由に楽しめるようになっている。 また、犬を飼い、動物好きな方に喜んでもらったり、近所の子供の訪問なども増えている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている <u>あまり増えていない</u> 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が <u>職員の2/3くらいが</u> 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><u>ほぼ全ての家族等が</u> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 散歩、ドライブなど、外出支援に力を入れている事と、ホーム内でも行える運動やゲームにも力をいれ、毎日が単調な生活にならないよう支援をしている。
 また、スタッフ個々に運動やゲームについては考えて頂き、毎日が同じ物にならないように心掛けている。